

近木川河口の鳥Ⅷ

食野 俊男（貝塚市）

はじめに

野鳥類の季節的な消長を調べるために2002年2月から始められた近木川河口周辺の鳥類調査は、以後ほぼ毎月継続して行われ、2013年6月までに257回を数え、12目28科85種の鳥類を確認するに至った（食野、2016）。本稿では、引き続き行った2013年7月から2年間の記録を報告する。

調査地および調査方法

2013年7月から2015年6月まで各月に1～3回、近木川橋～脇浜潮騒橋（近木川河口・導流堤を含む）～市民の森～自然遊学館の間で一部折り返し区間を含むルートセンサスを行った（2008年2月以降、図1）。また、観察頻度が低い種を確認した場合は、その調査日から1週間以内に撮影だけを目的に確認場所周辺を探索した。調査ルートに関しては、2002年2月から2008年1月までは、脇浜潮騒橋（近木川河口）～市民の森～自然遊学館の間を往復しつつ数ポイントで定点観測を行っていたので、各年の出現種数等の比較の際には注意が必要である（食野・石毛、2012参照）。

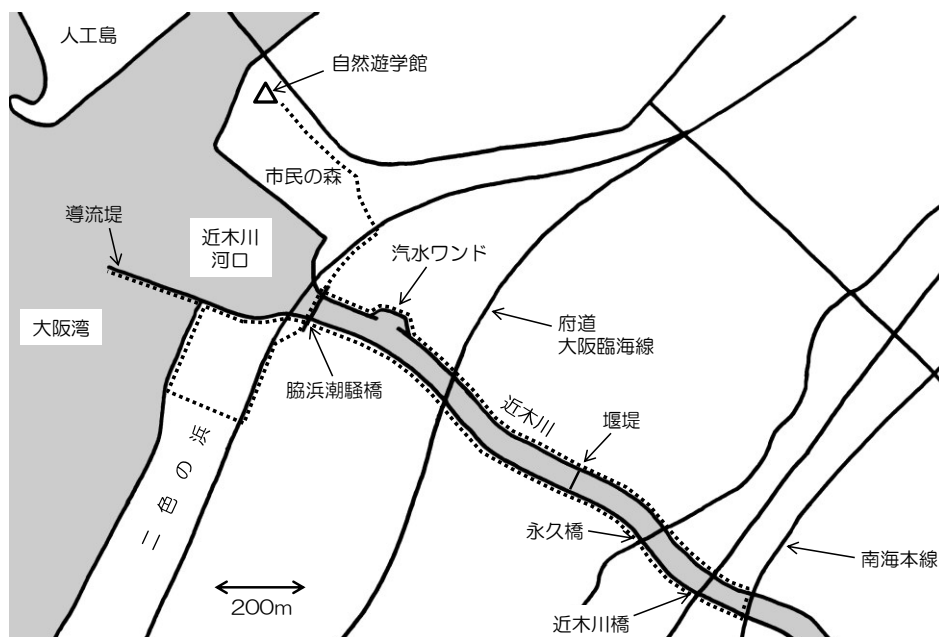


図1. 近木川河口周辺の調査ルート

近木川橋と脇浜潮騒橋の間には、感潮区間の最上流に当たる堰堤が設けられている。脇浜潮騒橋の右岸上流側では、干潟環境の再生を目指す「近木川河口干潟再生地（汽水ワンド）」が造成されている。調査区間の右岸側は、汽水ワンドのほか、宅地と耕作地になっていて、左岸側はほぼ宅地で占められている。近木川河口には約2.3ヘクタールの干潟が広がっていて、冬季には多数のカモ

類の逗留が見られる。貝塚市が管理する市民の森は、長年にわたり放置されていた湿地帯と、海岸を埋め立てて造成された海浜緑地公園（1993年10月開園）で、造成当時に植栽された樹木が大きく育ち、四季を通じて多くの鳥達が訪れる環境となっている（図2）。



近木川下流（府道臨海線付近から上流を望む）



汽水ワンド周辺



近木川河口



市民の森公園（左手は自然生態園）

図2. 調査ルート of 景観

用具は12倍双眼鏡とフィールドスコープを併用し、必要に応じてデジタル一眼レフカメラも使用しながら、鳴き声を含めて調査を行なった。また、同定困難なものに関しては、撮影した画像を和田太一氏（NPO 法人南港ウェットランドグループ）に同定していただいた。

結果

2013年7月から2015年6月まで計55回の調査を行い、11目26科57種12,141個体を確認した（表1と表2の数値は個体数）。調査日以外に確認のために撮影した画像の一部を図3に示した。2013年6月までに確認されていた85種から新たに追加された種はなかったが、図3の中でのハジロカイツブリはこれまでの調査では確認されていない種である。



オナガガモ (夏羽)
(2013年9月18日撮影)



カンムリカイツブリ
(2013年11月26日撮影)



ハジロカイツブリ
(2013年11月26日撮影)



オオジュリン
(2014年3月17日撮影)

図3. 調査日以外に撮影した鳥類

2013年の夏にオナガガモが1羽、旅立たずに留まり、夏羽を観察することができた。これは2002年の調査開始から初めてのことである。

2013年7月から2015年6月にかけての出現回数、出現率、および個体数を表3に示した。出現率の上位種は、カワウ、ムクドリ、コサギ、ハクセキレイ、スズメの留鳥で、コサギ以外は個体数も多かった。個体数の上位種には、これら以外のヒドリガモとホシハジロが入るが、この2種は冬季に近木川河口に群れで逗留する冬鳥である。

表3には、2002年2月から2015年6月までの312回の調査における出現率も併せて示した。この2年より前に10回以上出現していたのに今回観察されなかった種は、オカヨシガモ、アヒル、メダイチドリ、カモメ、ウグイス、シロハラの6種であった。

表4には、各年(1月～12月)に確認された鳥種を示した。種数は2009年と2011年の58種が最高で、2006年以降は50種台が続いている。

表3. 近木川河口において2013年7月から2015年6月までの各鳥種の出現率と個体数、および2002年2月からの出現率

2002年2月から2015年6月にかけて312回の調査を行った（調査者：石毛久美子、食野俊男、石井葉子、李哲敏）。
2002年2月から2015年6月にかけての調査で、12目28科85種の鳥類が確認された。

目	科	種	2013年7月～2015年6月				2002年2月～2015年6月			
			出現回数	出現率 (%)	出現率上位種	個体数	個体数上位種	出現回数	出現率 (%)	出現率上位種
カモ目	カモ科	オカヨシガモ					18	5.8		
		ヨシガモ					3	1.0		
		ヒドリガモ	31	56.4		2218	2位	170	54.5	
		アメリカヒドリ						4	1.3	
		マガモ						8	2.6	
		アヒル						13	4.2	
		カルガモ	38	69.1		267	8位	199	63.8	
		ハシビロガモ						2	0.6	
		オナガガモ	22	40.0		98		66	21.2	
		コガモ	25	45.5		306	7位	130	41.7	
		ホシハジロ	23	41.8		5032	1位	77	24.7	
		キンクロハジロ						4	1.3	
		スズガモ	4	7.3		13		20	6.4	
		ウミアイサ					5	1.6		
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	13	23.6		18		43	13.8	
		カンムリカイツブリ	9	16.4		17		43	13.8	
ハト目	ハト科	キジハト	44	80.0	7位T	116		214	68.6	
		ドバト	42	76.4	10位	532	4位	277	88.8	
カツオドリ目	ウ科	カワウ	55	100.0	1位	961		277	88.8	
ペリカン目	サギ科	ゴイサギ	11	20.0		24		73	23.4	
		アオサギ	47	85.5	6位	89		264	84.6	
		ダイサギ	44	80.0	7位T	70		209	67.0	
		チュウサギ	1	1.8		1		2	0.6	
		コサギ	52	94.5	2位T	125		248	79.5	
ツル目	クイナ科	バン	4	7.3		4		37	11.9	
チドリ目	チドリ科	タグリ						1	0.3	
		ケリ	8	14.5		11		15	4.8	
		ムナグロ						1	0.3	
		ダイゼン						9	2.9	
		イカルチドリ						1	0.3	
		コチドリ	9	16.4		16		57	18.3	
		シロチドリ	15	27.3		56		114	36.5	
		メダイチドリ						12	3.8	
		シギ科	チュウシヤクシギ	2	3.6		4		10	3.2
			キアシシギ	6	10.9		10		47	15.1
			ソリハシシギ						6	1.9
			イソシギ	24	43.6		26		120	38.5
	キョウジョシギ		2	3.6		6		24	7.7	
	オバシギ							6	1.9	
	ミュビシギ		1	1.8		2		6	1.9	
	トウネン		2	3.6		5		12	3.8	
	ハマシギ		12	21.8		170	9位	84	26.9	
	カモメ科	ユリカモメ	3	5.5		57		32	10.3	
		ウミネコ	25	45.5		163	10位	119	38.1	
		カモメ						20	6.4	
		セグロカモメ	10	18.2		28		49	15.7	
		コアジサシ	8	14.5		37		57	18.3	
	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	6	10.9		6		27	8.7
		タカ科	トビ	18	32.7		23		84	26.9
		オオタカ	1	1.8		1		6	1.9	
	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	1	1.8		1		39	12.5
	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ						3	1.0
コゲラ								1	0.3	
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	3	5.5		3		8	2.6	
		ハヤブサ						2	0.6	
スズメ目	モズ科	モズ	13	23.6		20		92	29.5	
	カラス科	ハシボソガラス	40	72.7		122		203	65.1	
		ハシブトガラス	16	29.1		53		65	20.8	
		シジュウカラ科	ヤマガラ						1	0.3
	シジュウカラ						2	0.6		
	ヒバリ科	ヒバリ	8	14.5		13		41	13.1	
	ツバメ科	ツバメ	20	36.4		79		117	37.5	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	44	80.0	7位T	156		215	68.9	
	ウグイス科	ウグイス						26	8.3	
	メジロ科	メジロ	5	9.1		20		40	12.8	
	ヨシキリ科	オオヨシキリ	2	3.6		2		21	6.7	
	セッカ科	セッカ						1	0.3	
	ムクドリ科	ムクドリ	52	94.5	2位T	482	5位	265	84.9	
	ヒタキ科	シロハラ						14	4.5	
		ツグミ	15	27.3		49		100	32.1	
		ジョウビタキ	13	23.6		16		33	10.6	
		ノビタキ						5	1.6	
		イソヒヨドリ	15	27.3		18		75	24.0	
		スズメ科	スズメ	48	87.3	5位	336	6位	284	91.0
	セキレイ科	キセキレイ	1	1.8		1		6	1.9	
		ハクセキレイ	50	90.9	4位	110		240	76.9	
		セグロセキレイ	12	21.8		16		53	17.0	
		ピンズイ	1	1.8		3		25	8.0	
		アトリ科	カワラヒワ	23	41.8		114		175	56.1
		マヒワ						1	0.3	
		シメ						9	2.9	
	ホオジロ科	ホオジロ	1	1.8		1		5	1.6	
		ホオアカ						1	0.3	
		アオジ	5	9.1		10		37	11.9	
		オオジュリン	2	3.6		4		5	1.6	

引用文献・参考文献

- 高野伸二（2008） 「フィールドガイド日本の野鳥」（増補改訂版第2刷）、342pp.，本野鳥の会.
- 中村 進・石毛久美子（2003） 貝塚市の鳥相. 「貝塚の自然 - 貝塚市立自然遊学館創館10周年記念号 -」、pp. 186-195.
- 真木広造（2006） 「日本の野鳥590」（初版第7刷）、654pp.，平凡社.
- 食野俊男（2010） 近木川河口の鳥Ⅴ（2008年度調査）. 貝塚の自然第12号：17-22.
- 食野俊男（2016） 近木川河口の鳥Ⅶ. 貝塚の自然第17号：28-37.
- 食野俊男・石毛久美子（2012） 近木川河口の鳥Ⅵ. 貝塚の自然第14号：1-10.